

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和2年度第3回高松市伝統的ものづくり振興審議会
開催日時	令和3年2月26日(金) 午前10時30分～11時40分
開催場所	I K O D E 瓦町 多目的スタジオ
議 題	(1) 令和2年度事業報告 (2) 令和3年度事業計画(案) (3) 高松盆栽振興事業 (4) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	公開
出席委員	4人 本多委員、谷委員、穴吹委員、井藤委員
傍 聴 者	1人 (定員3人)
担当課および連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

### 審議経過及び審議結果

(事務局)  
高松市伝統的ものづくり振興審議会規則第3条第2項の規定により、会議成立の報告。

議題(1) 令和2年度事業報告

～事務局より説明～

**【伝統的ものづくり夏休み親子体験教室について】**

(委員)

ワークショップをしている写真を見ると、それぞれの参加者の表情や体験で作った物があり、パッと見て単純に、とても楽しそうで、いいなと思う。SNSなどでの発信を積み重ねていくことに価値があるのではないか。来年度の集客に繋がり、フォロワー数も増加すると思う。

**【たかまつ工芸ウィークについて】**

(委員)

広報が弱いという点について、アイデアなどあるか。

(事務局)

昨年度より、Instagramでの広告を行っており、フォロワー等増えているが、1年目よりは効果が弱くなっている。広告対象とする範囲の変更や、その他の手段など、実行委員会の中で検討していきたい。

**【伝統的ものづくり産業発展事業補助金について】**

(委員)

庵治石開発協同組合の皮石保管台とは何か。

## 審議経過および審議結果

(事務局)

採石した庵治石の中で、綺麗で使える部分は少なく、通常は廃棄になる外側の石を活用するための保管台として利用する。製品化を進めていくために必要となる保管場所を作成するものである。

(委員)

コロナウイルスで展示会が取り止めになり、出展等を辞めた場合、補助金の取り扱い方法はどうか。紙面のパンフレットは、経費がかかる割りに効果は薄いことが多く、オンラインとかも含めた、何かやり方の転換をしないと、厳しいのではないのか。

(県経営支援課)

協同組合庵治石振興会のストーンフェア事業については、事業者が展示会に集まる代わりに、紙面で紹介しようと新たに業界新聞、雑誌で特集記事を作った。ストーンフェアで配る予定であったパンフレットについても来場予定であった事業者に送る対応を取ったため、今回は補助対象として認めた。

### 【伝統的ものづくり振興事業補助金について】

(委員)

有限会社鷲之山石材商会の事業について、当初、アロマストーンを2種類作る予定が1種類になった理由は。

(事務局)

新製品を作る過程で、もともと1種類しか作らなかったのではなく、何種類か試した結果として1種類になってしまったと聞いている。

(委員)

計画と成果がかけ離れて見えるので、成果が得られていない部分に関しては補助金を返還すべきでは。

(委員)

申請内容と、実施された事業内容に齟齬があったときどうするか、ルールを決めた方がいい。

### 議題(2) 令和3年度事業計画(案)

～事務局より説明～

### 【伝統的ものづくり学校巡回教室について】

(委員)

大手前高松で実施している、民間の事業者に対してビジネスの改善点やイノベーション案を提案するというプロジェクト授業に参加したことがある。今後の新たな展開として、若年層の方のアイデアをいただくことはどうか。

(委員)

香川大学の学生が、商店街の活性化等で勉強に来られることがある。若年層に対する周知活動という大きい枠組みで言えば、市内の小中学校に限るのではなく、大学生も含めたやり方があるのではないのか。

(事務局)

事業の枠組みとして、小中学校を対象に調整し予算化している。

(委員)

大学生がいわゆる翻訳者となって、職人さんと小学生、中学生の間に入って、わかりやすい言葉で、歴史や作り方を教えたりする中で、後継者育成や新商品開発につなげることができるのではないか。ただし、それは、むしろ、大学側がやっていかないといけないことかと思う。

**【伝統的ものづくり産業発展事業補助金について】**

(委員)

県として補助対象者に対してフィードバックする機会はあるのか。また、市と県で協力して行っていただきたい。

(県経営支援課)

高松市と協議した上で、前年度の事業成果を踏まえ、補助事業の提案を行うなど反映している。これからも高松市と協力して事業を行う。

**【伝統的ものづくり振興事業補助金について】**

(委員)

大学が、伝統的ものづくりに関連した研究や展示などの事業を考えた時に、振興事業補助金は対象となるのか。

(事務局)

補助金の交付要綱で、振興事業補助金の対象者は、伝統的ものづくりの事業者やその事業者が構成員に含まれている団体等と定めているため、教育機関が実施主体となる事業は対象にならない。事業組合など伝統的ものづくり関係団体が事業を実施し、そこに大学の研究室が加わることは問題ない。

(委員)

今回様式を変更することで、事業成果の面でかなり改善される点もあると思う。一方で申請書が簡素だったから申請した方がもしいたのであれば、申請数が減ることもあるのかと思う。この補助金の魅力度を精査していくことが重要と考える。

(委員)

他の補助金制度を見ると、大学など公的機関への相談の有無を審査項目等に入れているものもある。その時に合わせて、市民の皆さん、また委員、我々の声を聞いていただいて、弾力的に有効的に制度設計を変更していただければありがたい。我々もサポートしていきたいと思っている。

(事務局)

サポートしたいというご発言をいただき、非常に心強く思っている。まずは、委員の皆様には審査や成果発表時に助言をいただいて、事業者には活かしてもらえることを魅力を高めるための試みの一つとして行う。状況に応じて、より成果が出るよう、制度の見直しは引き続き検討していく。

議題（3）高松盆栽振興事業

～事務局より説明～

(オブザーバー)

黒松の輸出解禁を受けたPRパンフレットはいつ作成される予定か。また、海外研修生の受け入れはこれまで市が関与して行ってきたのか。

(事務局)

PRパンフレットは2月26日に完成する。海外研修生の受け入れは民間の研修施設が行う。海外から研修生が来る予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大のため来日できていない。東京在住の中国の方が一名研修を受けている。

議題(4) その他

オブザーバーの皆様より御意見等をいただく。